

第9章 新大分スタンダードと道徳科

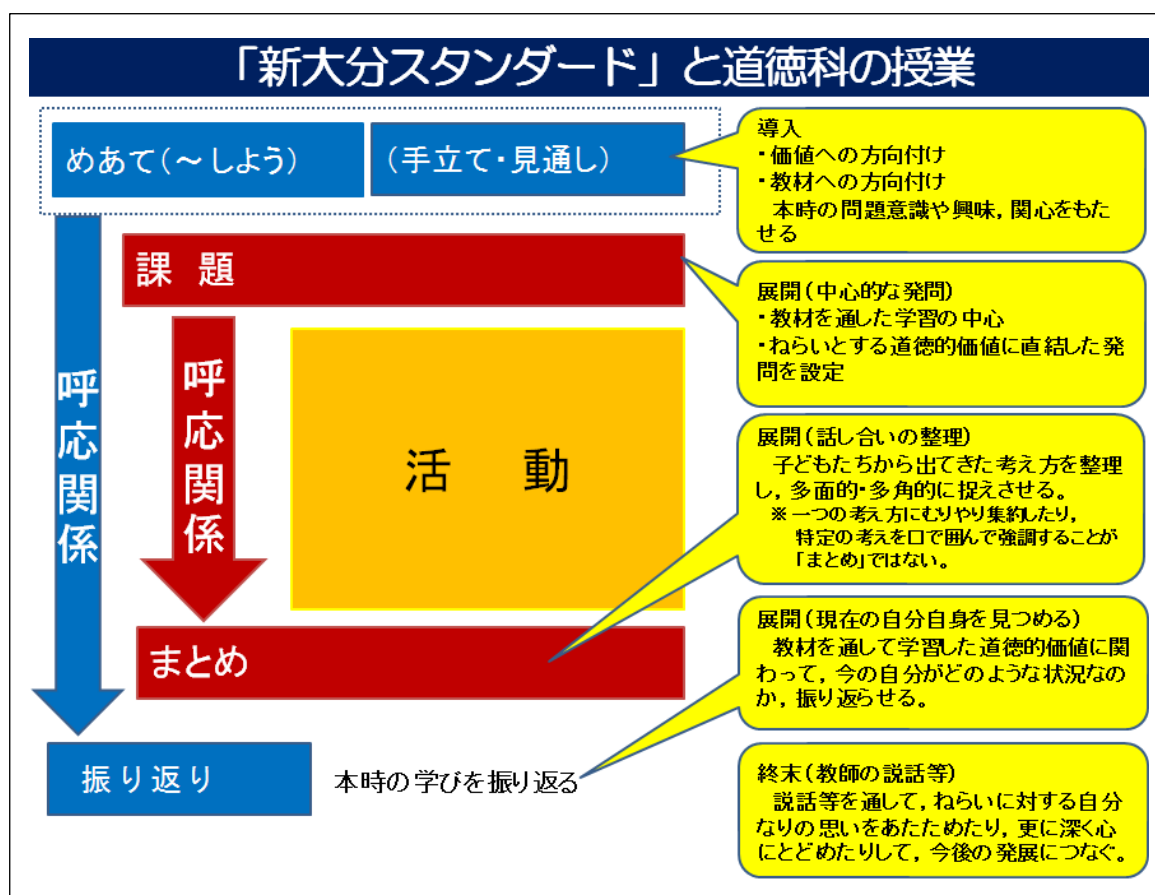
1 新大分スタンダードと道徳科の授業

新大分スタンダードでは、学習に必要な要素として、次のことを示しています。

- ◇めあて・・・学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- ◇課題・・・追究すべき事柄を明確にする「課題」
- ◇まとめ・・・追究した結果を明確にする「まとめ」
- ◇振り返り・・・学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」

出典 大分県教育委員会「新大分スタンダード」(R5.3) より

下の図は、新大分スタンダードと道徳科の一般的な学習過程の関係を示した図です。



道徳科の一般的な学習過程(例)は、本書の30ページ「第3章の5 道徳科の学習指導過程(例)」で確認してください。

2 授業の展開例（小学校3本、中学校2本）

（1）「黄色いベンチ」	低学年	規則の尊重
（2）「雨のバス停留所で」	中学年	規則の尊重
（3）「ブランコ乗りとピエロ」	高学年	寛容・謙虚
（4）「二通の手紙」	中学校	遵法精神
（5）「きみばあちゃんの椿」	中学校	生命の尊さ

(1)「黄色いベンチ」(低学年)

【教材「黄色いベンチ」・・・「私たちの道徳」低学年用に掲載】

【規則の尊重】 〔第1学年及び第2学年〕

約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にすること。

① ねらい (例)

【学習の中心】・・・ 靴のままでベンチに上がった2人の行為について

【学習活動】・・・ 様々な立場から考えさせる学習活動を通して

【道徳性 (方向目標)】・・・ みんなで使うものを大切にしていこうとする心情を育てる。

②めあて等の設定例

めあて

みんなで使うものについて考えていきましょう

中心発問
(課題)

はっとしてかおを見合わせた時，ふたりはどんなことに気付いたでしょう

まとめ
(整理)

○みんなで使うものは，自分一人のものではないことについて

○みんなの物を使う時は，次に使う人のことをよく考えることについて

振り返り

この学校にはこんなお友だちがいます (紹介)

みんなで使うものを大切にしているかな

③板書例

五月十五日 だい六かい どうとく

みんながつかうもの

- ・ボール
- ・そうじ道具
- ・スリッパ

「黄色いベンチ」

・だれもいないから、たのしい。

・おもしろい。

・高いところは、きもちいい。

ふたりはベンチにのってなんどもなんどもむちゅうでかみひこうきをとばしました。

「はっ」として、かおをみあわせたとき、ふたりはどんなことに気づいたでしょう。

・どうしよう。

・わるいことをしてしまった。

・あやまらないといけない。

・くつのままで、あがったからだ。

○女の子の気持ち

・だれがよこしたの。

・家に帰りたい。

○おばあさんの気持ち

・どこの子かしら、こんなことをするのは。

きいろい黄色いベンチは みんなのもの

2人で話す男の子 イラスト

汚れたベンチを見るおばあさんと女の子のイラスト

ベンチで遊ぶ2人の男の子 イラスト

④評価について (例)

【学習状況を把握するための評価の観点】

ベンチを汚した立場とベンチを汚された立場の双方の思いを考えながら発言している。

【評価の方法 (いつ，どのようにして)】

- ・汚した立場：役割演技の様子や発言から見取っていく。(机間指導と意図的指名)
- ・汚された立場：ワークシートの記述や発言から見取っていく。

⑤授業展開例

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導及び留意点
導入 4分	1. みんなで使うものにはどんなものがあるか想起する。 ○みんなで使うものはどんなものがあるかな。 今日はみんなで使うものについて考えていきましょう	・トイレのスリッパ ・掃除道具 ・遊具 ・鉛筆けずり	・「トイレのスリッパ」や「掃除道具」等の写真を提示する。 ・教材の簡単なあらすじを紹介し、興味をもたせる。
展開 40分	2. 教材を読んで、話し合う。 ○何度も何度も夢中で紙飛行機をとばした時、2人はどんな気持ちだったかな 中心発問（課題） ◎はっとして顔を見合わせた時、2人はどんなことに気付いたでしょう ○女の子やおばあさんは、どんな気持ちだったかな 3. 学習したことを自分の生活に置き換えて、考える。 ○この学校にはこんなお友だちがいます（紹介） みんなで使うものを大切にしているかな	・楽しい、おもしろい。 ・高い所からとばすと気持ちいい。 ・誰もいないから、何回でもできるぞ。 ・まずい、靴が汚れていた。 ・悪いことをしてしまった。 ・謝らないといけないけど、どうしようかな。 ・家に帰りたい。 ・どうして、ベンチが汚れているのかな。 ・誰がこんなことをしたのかな。 ・トイレのスリッパは揃えたことがある。 ・あまり、できていないなあ。 ・これから、がんばろうかな。	・教材は教師が読み聞かせる。 ・ここでは、あまり時間をかけすぎないようにする。 ・「こんな2人をどう思いますか」と問い、児童の反応を受け止めながら、中心発問につなげていく。 ・役割演技やグループ学習等、全員の児童が語る場を設定する。 ・女の子やおばあさんの立場からも考えさせる。 まとめ（整理） ・公共物の使い方や公共の場でのきまりについて、いくつかの考えを取り上げ、話し合いを整理して、まとめとする。 ・友だちが、掃除道具を整理している写真等を紹介する。（事前に準備しておく。）
終末 1分	4. 教師の説話を聞く。 （例）音楽室のタンバリンが 50 年前のものであることを紹介する。		・本時の学習の余韻をもたせて授業を終わる。

(2)「雨のバス停留所で」(中学年)

【教材「雨のバス停留所で」・・・「私たちの道徳」中学年用に掲載】

【規則の尊重】 〔第3学年及び第4学年〕

約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

①ねらい(例)

【学習の中心】・・・よし子の行為について

【学習活動】・・・自分事として考えたり、良し悪しを判断したりする学習活動を通して

【道徳性(方向目標)】・・・きまりやマナーを守ろうとする判断力を育てる。

②めあて等の設定例

めあて

みんなが気持ちよく過ごすためのきまりやマナーについて考えよう

中心発問
(課題)

お母さんは怒っているようだが、よし子のしたことは、いけないことなのか

まとめ
(整理)

○世の中には、目に見えないきまりやマナーがあるということについて
○まわりの人の気持ちを考えながら行動することの大切さについて

振り返り

みんなのことを考えて約束やきまりを守っているか、振り返ろう
(「私たちの道徳」120ページに書き込ませる。)

③板書例

六月二十七日 第九回 道徳授業

みんなが気持ちよく過ごすために

「雨のバス停留所で」

バス停の場面
順番を抜かす
よし子イラスト

↓

順番を抜かした
よし子を引き戻す
お母さんのイラスト

↓

話をするよし子と
お母さんのイラスト

よし子のしたことは、いけないことなのか

【いけない】

- ・順番ぬかしだ。
- ・みんなが並んでいるから、きまりと同じ自分勝手な行動だ。

【いいと思う】

- ・停留所に並んでいる。
- ・雨宿りは並んだことにならない。

並んでいる人たちの気持ちはどうでもいいのか。

お母さんの伝えたかったことは？

- ・人の気持ちを考えてほしい。
- ・「自分さえよければ」は、いけない。
- ・周りのことを考える子に。

みんなが使う場所 公共の場

- ・ルール
- ・マナー

バス停で並んで待つ人たちのイラスト

④評価について(例)

【学習状況を把握するための評価の観点】

よし子の行為について、自分ならどうするか考えたり、きまりやマナーの視点から発言したりしている。

【評価の方法(いつ、どのようにして)】

- ・グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。(机間指導と意図的指名)
- ・ワークシートの記述から見取っていく。

⑤授業展開例

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導及び留意点
導入 3分	1. 本時の学習の方向をつかむ。 ○みんなが気持ちよく過ごすためのきまりやマナーについて考えよう		・「私たちの道徳」120 ページを紹介し、本時の学習の概要をつかませる。 ・教材の内容を紹介し、教材への興味をもたせる。
展開 39分	2. 教材を読んで、話し合う。 中心発問（課題） ◎お母さんは怒っているようだが、よし子のしたことは、いけないことなのか （補助発問・・・必要に応じて） ・なぜ、そう思うの ・〇〇さんの考えをどう思うか ・並んでいる人たちは、よし子の行為をどう感じているかな ○お母さんは、よし子に何を伝えたかったのだろうか 3. 学習したことを自分の生活に置き換えて、考える。 ○みんなのことを考えて約束やきまりを守っているか （「私たちの道徳」120 ページに書き込む。）	<いけない> ・みんな並んでいるのに、ぬかすのはよくない。 ・みんなが並んでいるから、きまりと同じ。 <いいと思う> ・雨宿りをしているだけで、停留所に並んでいない。 ・雨宿りしながら、待っている人の気持ちを考えてほしい。 ・自分さえよければよいという考え方はよくない。	・教材は教師が読み聞かせる。 ・停留所や雨宿りをしている位置等を、絵や図を使って理解させる。 ・グループトーク等を行い、十分語らせる。 ・多数決で、一つの考えに決定するようなことはしない。 まとめ（整理） ・公共の場でのマナーについていくつかの考えを取り上げながら、話し合いを整理して、まとめとする。 ・身の回りのきまりを意識しながら生活できているか、振り返らせる。
終末 3分	4. 教師の説話を聞く。 （「私たちの道徳」118 ページ）		・「私たちの道徳」118 ページを読み聞かせて、本時の学習を終わる。

(3)「ブランコ乗りとピエロ」(高学年)

【教材「ブランコ乗りとピエロ」・・・「私たちの道徳」高学年用に掲載】

【相互理解，寛容】 〔第5学年及び第6学年〕

自分の考えや意見を相手に伝えるときに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

①ねらい

【学習の中心】・・・ ピエロがサムを受け入れたことについて

【学習活動】・・・ 相手を受け入れる時の様々な考え方・感じ方を想像する学習活動を通して

【道徳性(方向目標)】・・・ 自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を育てる。

②めあて等の設定例

めあて	相手を受け入れる心について考えよう
中心発問 (課題)	ピエロがサムを受け入れたのは、どのような気持ちをもつことができたからか
まとめ (整理)	自分も反省することがあるという気持ちについて (※謙虚な気持ちが、寛容な心や態度につながっていく。)
振り返り	ピエロのような心が自分にはあるか、振り返ってみよう

③板書例

9月20日 第14回 道徳授業

相手を
受け入れる心

腹を立てる
女の子
イラスト

話をする友だち
を見る女の子
イラスト

サーカスで
空中ブランコする
イラスト

- サムを許せない。
- 出番をうばわれて
くやしい。
- サムが憎い。

⇕

ピエロとサムの2
人で語り合う影
イラスト

ピエロがサムを許せたのは、どのような気持ちをもつことができたからか。

- サムはすごい。
- サムは一生けん命だ。
- サーカスのために努力しているのだ。

<サムのよさに気づいて>

相手のよさに気づいたら、
本当に許せるのか。

- サムのこれまでを考えると難しい。
- 自分だったら、できない。

- サムにきびしく言い過ぎたかもしれない。
- 目立ちたい気持ちが自分にもあった。

<自分を振り返って>

④評価について(例)

【学習状況を把握するための評価の観点】

サムを受け入れたピエロの気持ちを様々な視点から考え書いている。

【評価の方法(いつ、どのようにして)】

・道徳ノートの記述から見取っていく。

⑤授業展開例

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導及び留意点
導入 4分	1. 本時の学習の方向をつかむ。 (「私たちの道徳」81 ページを活用) ○相手を受け入れる心について考えよう		・「私たちの道徳」81 ページを紹介し、本時の学習の方向をつかませる。 ・教材の概要を紹介し、教材への興味をもたせる。
展開 40分	2. 教材を読んで、話し合う。 ○カーテンの隙間から、サム演技を見ている時のピエロはどのような気持ちだったか 中心発問（課題） ◎ピエロがサムを受け入れたのは、どのような気持ちをもつことができたからか (補助発問・・・必要に応じて) ・「すごい」と思えたら、憎む気持ちが消えていくのか ・あなたがピエロの立場だったら、サムのがんばりを見ただけで許せるのか 3. 学習したことを自分の生活に置き換えて、考える。 ○ピエロのような心が自分にはあるか、振り返ってみよう	・サムを許せない。 ・自分の出番をうばわれてくやしい。 ・サムはすごいと認める気持ち。 ・サムにきびしく言い過ぎたという反省の気持ち。 ・目立ちたい気持ちが自分にもあったという気づき。 ・サムをうらやむ気持ちがあったから、憎む気持ちが生まれたのかもしれない。 ・人を許すのは難しい。広い心は自分にはないかも。 ・自己中心的人から言われるけど、心がせまいのかな。	・教材は教師が読み聞かせる。 ・ここでは、時間をかけすぎないようにする。 ・ピエロのサムへの態度を対比しながら、中心発問につなげていく。 ・道徳ノートに自分の考えを書かせる。 ・子どもの発言を分類しながら板書する。 まとめ（整理） ・相手を受け入れたり、許したりすることについて、いくつかの考えを取り上げながら、話し合いを整理して、まとめとする。 ・これまでの自分を静かに振り返らせる。
終末 1分	4. 教師の説話を聞く。 (相田みつおの「セトモノとセトモノと・・・」を紹介する。)		・詩の読み聞かせをして、本時の学習の余韻をもたせて授業を終わる。

(4) 「二通の手紙」(中学校)

【教材「二通の手紙」・・・「私たちの道徳」中学校用に掲載】

[遵法精神、公德心]

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

①ねらい(例)

- 【学習の中心】・・・元さんが姉弟を入園させたことについて
- 【学習活動】・・・きまりの大切さを生命尊重や思いやり等の視点から考えることを通して、
- 【道徳性(方向目標)】・・・きまりを守り義務を果たすことのできる判断力を育てる。

②めあて等の設定例

めあて	規則やきまりの大切さについて考えよう
中心発問 (課題)	元さんのこの場面での「思いやり」には問題はないのか(中心発問)
まとめ (整理)	○規則は自分一人のものではないということについて ○先のことを想像することの大切さについて
振り返り	法やきまりを守ることの大切さについて、今日の学習で考え直したことをノートに書こう

③板書例

11月15日 第21回 道徳授業

○規則やきまりの大切さ

「二通の手紙」

手をつないで立つ姉と弟
イラスト

思いやりと規則にはさまれて、苦しんでいる

動物園の規則に問題はないのか。

- 子どもだけで入園できないのは、命を守るため。
- 動物園の規則には問題はない。

元さんのこの場面での「思いやり」には問題はないのか。

- 思いやりと同情は違う。
- 命よりも大切なものはない。
- 一時的な感情に流され規則を破るのは、多くの人を危険にする。

法やきまりについて学んだこと

町のきまり	校則
部活動の規則	
クラスのきまり	条例
法律	友だちとの取決め

法律の規定に触れなければ何をやってもよいという思想ほど、社会に迷惑をかけるものはない。

吉野作造

④評価について(例)

【学習状況を把握するための評価の観点】

きまりの大切さを生命尊重や思いやりと関連付けながら考え、発言したり書いたりしている。

【評価の方法(いつ、どのようにして)】

- ・グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。(机間指導と意図的指名)
- ・道徳ノートの記述から見取っていく。

⑤授業展開例

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導及び留意点
導入 4分	1. 教材への問題意識をもつ。 ○遊園地や動物園は、子どもだけで入園することができないのはなぜか ○規則やきまりの大切さについて考えよう	・危険であるから。 ・命にかかわるから。	・ねらいに関わる問題意識をもたせる。 ・2～3人程度，発表させる。 ・教材の簡単な内容を紹介し，教材への興味をもたせる。
展開 43分	2. 教材を読んで，話し合う。 ○この話で迷うところは，どんなことか ○動物園の規則を守ろうとすると，思いやりの行動ができにくくなるが，動物園の規則に問題はないのか 中心発問（課題） ◎元さんのこの場面での「思いやり」には問題はないのか 3. 学習したことを自分の生活に置き換えて，考える。 ○法やきまりを守ることの大切さについて，今日の学習で考え直したことをノートに書こう	・思いやりと規則にはさまれて苦しんでいる。 ・子どもだけで入園できないのは，命を守るため。 ・動物園の規則には問題はない。 ・思いやりと同情は違う。 ・命よりも大切なものはない。 ・一時的な感情に流され規則を破るのは，多くの人を危険にする。 ・安易に規則を破ると多くの人間を巻き込んでしまうことを改めて理解した。	・教材は，教師が読み聞かせる。 ・時間をかけすぎないようにする。 ・ここでも時間をかけすぎないようにする。 ・思いやりと規則という価値を対照的に板書に位置付け中心発問につなぐ。 ・道徳ノートに自分の考えを書かせる。 ・グループ学習等，全員の生徒が語る場を設定する。 まとめ（整理） ・規則は自分一人のものではないことや先のことを想像することの大切さについて，いくつかの考えを取り上げ，まとめとする。 ・特に発表させたりせず，静かに自分を振り返らせ，道徳ノートに書かせる。
終末 3分	4. 教師の説話を聞く。		・法や規則を守らないことにより起こった出来事や先人の言葉等を紹介し，授業の余韻を残して終わる。

(5)「きみばあちゃんの椿」～広瀬淡窓の生き方に学ぶ～（中学校）

【教材「きみばあちゃんの椿」・・・「私たちの道徳」中学校用に掲載】

【生命の尊さ】

生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること。

① ねらい

【学習の中心】・・・ 淡窓の話を聞いた裕介の思いについて

【学習活動】・・・ 自分事として語り合ったり，精一杯生きる意味を考えたりする活動を通して

【道徳性（方向目標）】・・・ 自他の生命を尊重する心情を育てる。

②めあて等の設定例

めあて	精一杯生きるとは，どういうことか，広瀬淡窓の生き方から考えてみよう
中心発問 (課題)	きみばあちゃんの話聞いた後，裕介はどのようなことを考えただろうか
まとめ	○自分にできることを精一杯取り組むことの大切さについて ○弱かった自分を反省し，努力する希望や意欲を抱いたことについて
振り返り	広瀬淡窓の生き方から，精一杯生きるとは，どういうことだと思ったか

③板書例

二月十五日 第三十回 道徳授業

広瀬淡窓

・ 咸宜園

・ 万善簿

・ 三奪法

↓

精一杯生きる

本を読んだ後，裕介はどのようなことを考えただろうか。

- ・ 自分と似ているな。
- ・ 自分が叱られているみたい。
- ・ 若い時は弱い所もあったのだ。

きみばあちゃんの話聞いた後，裕介はどのようなことを考えただろうか。

- ・ 自分が甘かった。
- ・ これから自分にできることを精一杯やってみよう。
- ・ 病気のせいにして，努力をしなかった自分がはかしい。

精一杯生きるとは？

道徳ノートに
まとめよう。

万善簿

鋭きも鈍きもともに捨てがたし、錐（きり）と槌（つち）とに使い分けなば。

④評価について（例）

【学習状況を把握するための評価の観点】

裕介の思いを自分と重ねながら語り合ったり，精一杯生きる意味を自分事として書いていたりしている。

【評価の方法（いつ，どのようにして）】

- ・ グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。（机間指導と意図的指名）
- ・ 道徳ノートの記述から見取っていく。

⑤授業展開例

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導及び留意点
導入 10分	1. 本時の教材に関わる大分の先人について知り、学習の方向をつかむ。 ○広瀬淡窓の簡単な紹介 ○精一杯生きるとは、どういうことか、広瀬淡窓の生き方から考えてみよう		・万善簿や咸宜園を紹介し、広瀬淡窓に興味をもたせ、本時のめあてを設定する。
展開 35分	2. 教材を読んで、話し合う。 ○広瀬淡窓の手紙と倉重湊の話を読んだ後、裕介はどのようなことを考えただろうか 中心発問（課題） ◎きみばあちゃんの話を読んだ後、裕介はどのようなことを考えただろうか 3. 学習したことを自分に置き換えて、考える。 ○広瀬淡窓の生き方から、精一杯生きるとは、どのようなことだと思ったか	・なんだか、自分と似ているな。 ・自分が叱られているみたい。 ・淡窓という人は、若い時は弱い所をもっていたんだなあ。 ・自分が甘かった。 ・これから自分にできることを精一杯やってみよう。 ・病気のせいにして、努力をしなかった自分がはずかしい。 ・自分に今できることを、日々努力していきたい。 ・一日一日を大切に生きていきたい。	・教材は教師が読み聞かせる。 ・ここではあまり時間をかけないようにする。 ・淡窓の弱さを話題にして、中心発問につなぐ。 ・道徳ノートに自分の考えを書かせる。 ・グループ学習等全員の生徒が語る場を設定する。 まとめ（整理） ・自分にできることを精一杯取り組む大切さについて、いくつかの考えを取り上げ、まとめとする。 ・精一杯生きるとは、どういうことか、淡窓の生き方から学んだことをもとにノートに書かせる。
終末 5分	4. 教師の説話を聞く。 ○広瀬淡窓の詩を紹介する。 「鋭きも鈍きもともに捨てがたし、錐（きり）と槌（つち）とに使い分けなば」	（解説）人間には人それぞれに個性があり、違った能力があるものである。その能力にあった使い方をすれば、役に立たないという者など居ないのである。	・補助教材の読み聞かせをして、本時の学習の余韻をもたせて授業を終わる。